

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「旭日機ジャパン ～気になるあの子は愛国主義者～」

テーマ:「金髪碧眼なのに、ネトウヨな美少女」

キャラクター

45

ストーリー

30

テーマ(設定)

45

文章力

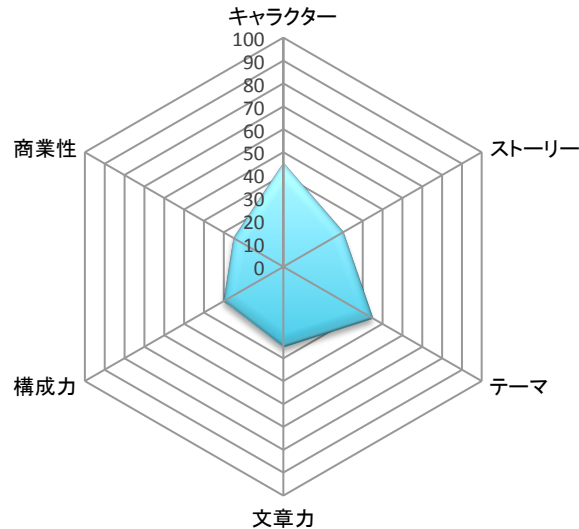
35

構成力

30

商業性

25



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・最初に、右向きでも左向きでも極端な政治思想に傾いた作品は商業的に売り出して行くにはかなり厳しいものがある。商業性欄の点数が低いのはほとんどそれが原因。ただそのような事情はさておき単純なネタのクオリティでいえば、集団的自衛権、九条バリアなど、実はよく考えられていてセンスのあるネタが多く、読んでいて非常に楽しかった。

・本作品の魅力は、理性もなくそももないメーターの振り切れたギャグ路線という点にあるように感じる。話の後半はギャグでよいのだが、前半はギャグというよりどちらかというとシリアスな緊張感を含む作風であるため、読む側としては一体何をすればよいのか分からない構成になってしまっている。基本的にギャグ→シリアスの流れは盛り上がる人が多いが(例えば銀魂等の作品はそれが顕著)、シリアス→ギャグの流れは「突然ふざけはじめやがった」という反感を買い易いためおすすめはされない。やるならギャグ→シリアスの流れに書き換えるべきだった。

合計加点ポイント 0

総得点: 210 / 600

B方式総合得点: 7350 点